

2018年1月7日

## 福音書からのメッセージ

すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

(マルコによる福音書1章11節)

今日は「顕現後第一主日・主イエス洗礼の日」です。イエス様が洗礼を受けた出来事を覚える日です。わたしはよく、どうしてイエス様は洗礼を受けないといけなかったのだらうと思うことがありました。振り返ってみると、わたしは自分の生き方を変えようとして洗礼を受けたように思います。水に入り、全身を洗い流されることで、新しい自分になれる気がしたのです。

でもそれが洗礼の意味だとしたら、イエス様は洗礼を受ける必要はなかったはず。イエス様は正しい人でした。そのイエス様がなぜ洗礼を受けたのでしょうか。

今日の場面を想像してみましょう。洗礼者ヨハネが、「悔い改めなさい。神の国は近づいた」と叫ぶ中、たくさんの人たちがその声を聞いて集まってきました。彼らは自分たちの生き方を何とかしたいと思っていました。でもどうしようもない、そんな現実が彼らの前にはあったのです。

悔い改めるとは簡単に言うと、神さまの方に心も体も向き直りなさいということです。神さまとはまったく違う方向を向いている人が、グルンと向き直って神さまの方を向く、それが悔い改めです。

誰もが自分で悔い改めることができれば、何の問題もなかったでしょう。しかし実際はそうではありません。自分だけの力で心も体も神さまに向け、ずっと正しく歩んでいくことなど不可能です。わたしたちもそうではないでしょうか。ちょっとしたことで悪い考えが生まれ、口を開くと人の悪口が出ていき、隣の人さえも心から大切にすることができない。神さまにすべてを



向けて生きていないのです。

洗礼者ヨハネの元には、たくさんの人が集まっていました。その人たちは、自分の弱さを、そして罪深さを知っていた人たちでした。そして自分を何とかしたいという思いで、ヨハネの元にやって来ました。

その列の中にイエス様は来られたのです。しかしイエス様は、遠くで、「さあ、悔い改めなさい」と言われているのではありません。自ら人々の間に来られ、一緒に並ばれるのです。

うつむき、ボロボロになっている人の間に来られます。明日が見えず、この先どうなるのかわからない、不安、恐れ、戸惑い、その思いに心が押しつぶされそうになっている人の間に、イエス様は来られ、共に歩んでくださる。その中に、わたしたちの姿もあるのではあるのでしょうか。

イエス様の洗礼、それはクリスマスの出来事と同じように、イエス様がわたしたちの間に、そして一緒にいてくださるというしるしです。

主は共にいてくださいます。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

Tel/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>